

私立学校特別研修会 外国語（英語）教育改革特別部会 〔西日本エリア（鹿児島）〕 実施報告

一般財団法人私学研修福祉会 主催
一般財団法人私学教育研究所 協力 / 日本私立中学高等学校連合会 後援

小学校・中学校・高等学校等を通じた英語教育改革を進める文部科学省では、平成26年度より英語教員の英語力・指導力強化を図る観点から、英語指導力向上事業「英語教育推進リーダー中央研修」を外部専門機関に委託し実施しています。同研修は、全国の国・公・私立学校の英語教員を対象にしているものの、公立学校を中心とした研修の仕組みになっていたことから、私学関係者の要望に応じて、文部科学省は平成27年度より私立学校教員が参加しやすいよう受入体制を整備し、私立学校教員も参加できるようになりました。

しかし同時に、次期学習指導要領や大学入学者選抜改革を含めて国が進める英語教育改革に係る最新の情報が、私立学校には十分に伝わっていない実情もあり、私立学校教員は公立学校教員に比べ情報量が少ない故に埒外に置かれた感は否めません。

ついては、私立学校においても、外国語（英語）教員の外国語（英語）力・指導力強化を図るためには、教員が21世紀型教育に相応しい最新の教授法と情報を早急に取り入れる必要があることから、当研究所では、平成27年度より専門家の指導による特別研修「外国語（英語）教育改革特別部会」を実施しており、平成28年度も引き続き、専門家の指導に上記の「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の指導によるワークショップを加えて、研修を実施することとしました。

当部会【西日本エリア（鹿児島）】では、初日は鹿児島育英館中学校・高等学校を会場に、英語の授業等の視察、実践発表、視察校の教員を交えて意見交換等を行いました。同校は、少数精鋭の教育を徹底し、英語教育は、大学入試改革の流れの中で英検やGTEC等、積極的な資格取得の指導を行い、また、外国人教師が常勤し、英語による英語の授業を行っています。翌日は市内の鹿児島東急REIホテルにおいて、上智大学言語教育研究センター 教授・副センター長の藤田保先生による講演、私学の新しい英語教育の中核を担うべく文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の指導によるワークショップを行いました。また、参加者の交流を深めてネットワークづくりを進める情報交換会等、多彩なプログラムを用意しました。

- ◆ **会 期** ◆ 平成28年12月9日（金）～10日（土）
- ◆ **会 場** ◆ （初 日） 鹿児島育英館中学校・高等学校 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉 550
（2日目） 鹿児島東急 REI ホテル 鹿児島県鹿児島市中央町 5-122
- ◆ **参加人員** ◆ 16名
- ◆ **参加対象** ◆ 私立中学校・高等学校・中等教育学校の英語科教諭
- ◆ **プログラム** ◆

- ① **研究授業** 鹿児島育英館中学校・高等学校（授業視察等）
- ② **実践発表** テーマ 「Innovative 21st century Education」
～4C(Communication・Creativity・Collaboration・Critical Thinking)+ICT～
発表者 吉 田 美和子 鹿児島育英館中学校・高等学校 教諭
発表者 ジェームズ・ジョンストン 鹿児島育英館中学校・高等学校 講師

③ **質疑応答・意見交換** 意見・情報交換を通して課題を探求します。

④ **講 演** 演 題 「英語教育改革の現状と今後の展望 ～入試改革の動向を踏まえて～」
講 師 藤 田 保 上智大学言語教育研究センター 教授・副センター長

⑤ **ワークショップ** ※ワークショップ後にグループに分かれて意見交換会を行います。
テーマ 「英語で授業のヒント Teaching English in English」
(1)「Pronunciation & Listening1」(2)「Pronunciation & Listening2」(3)「Writing」
※文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者が担当します。

指 導 山 本 永 年 市川中学校・高等学校 教諭
原 田 貴 之 愛知中学校・高等学校 教諭
石 井 玲 子 大阪成蹊女子高等学校 教諭
森 田 剛 志 滝川第二中学高等学校 教諭
家 中 潤 久留米大学附設高等学校 教諭
桑 野 健太郎 九州国際大学付属高等学校 教諭

◆ **日程概要** ◆

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	30				0	30 50	0	45 50 0 30	20	
12月9日（金） 鹿児島育英館 中学高等学校					受付	開 会 式	①研究授業		② 実践 発表	③ 質疑応答 意見交換会
12月10日（土） 鹿児島東急 REIホテル		④講演	⑤ ワー クシ ョッ プ	昼食		⑤ ワー クシ ョッ プ	意見交換会	閉 会 式		

◆ 学校紹介 ◆

鹿児島育英館中学校・高等学校

理事長 後藤 洋一 校長 宮元 一頼

平成4年に中高一貫教育校として鹿児島育英館中部部・高等部を開校。平成11年に校名を鹿児島育英館中学校・高等学校として全寮制を廃止、男女共学となる。南九州最大の総合学園である日章学園12校の学校の一つである。鹿児島育英館の大きな特徴は以下のとおりである。

「少数精鋭の教育」を徹底し、中学校ではコース別のクラス編成、高等学校では国語・数学・英語で習熟度別の少数クラスでの授業を展開している。また、放課後や休み時間を利用した個別指導や添削指導にも積極的に取り組んでいる。

「英語の育英館」と呼ばれる実績を持ち、英語で活躍したいと考える生徒の可能性を开花させ、社会に有為な人材として大きく羽ばたく教育を実践している。中学校（特進コース）・高校（希望者）では海外語学研修を実施し、グローバルな視野を持った生徒の育成にも取り組んでいる。

県内で初めて高校入学者全員にiPadを支給し、早くからICTを活用した授業に取り組んでいる。特に近年、積極的に取り組んでいるプレゼンテーション作成やプロジェクト活動などではiPadの活用が生徒たちの学習効果を高めている。

◆ 講師プロフィール ◆

藤 田 保

上智大学外国語学部比較文化学科（現、国際教養学部）卒業。同大学院外国語学研究科言語学専攻博士前期課程修了。専門は応用言語学（バイリンガリズム）と外国語教育。立教大学異文化コミュニケーション学部教授等を経て、現在、上智大学言語教育研究センター教授、副センター長。特定非営利活動法人小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）理事。公益財団法人日本英語検定協会理事。主な著書に『コミュニケーション型英語教育を考える』、『英語教師のためのワークブック』（ともにアルク）、『21年度から取り組む小学校英語』（教育開発研究所）などがある。

◆ 講師・発表者・指導員（順不同） ◆

藤 田 保	上智大学言語教育研究センター	教授・副センター長
宮 元 一 頼	鹿児島育英館中学校・高等学校	校長
ジェームズ・ジョンストン	鹿児島育英館中学校・高等学校	教諭
山 本 永 年	市 川 中 学 校 ・ 高 等 学 校	教諭
原 田 貴 之	愛 知 中 学 校 ・ 高 等 学 校	教諭
石 井 玲 子	大 阪 成 蹊 女 子 高 等 学 校	教諭
森 田 剛 志	滝 川 第 二 中 学 高 等 学 校	教諭
家 中 潤	久 留 米 大 学 附 設 高 等 学 校	教諭
桑 野 健 太 郎	九 州 国 際 大 学 付 属 高 等 学 校	教諭

◆ 特別委員・指導員（順不同） ◆

平 方 邦 行	工学院大学附属中学高等学校	校長
水 澤 孝 順	大 妻 中 野 中 学 高 等 学 校	主幹
松 本 浩 欣	相 模 女 子 大 学 中 学 部 ・ 高 等 部	教諭
野 中 理 恵	広 島 女 学 院 中 学 高 等 学 校	教諭
吉 田 美 和 子	鹿児島育英館中学校・高等学校	教諭
川 本 芳 久	一般財団法人日本私学教育研究所	事務局長代行
山 崎 吉 朗	一般財団法人日本私学教育研究所	主任研究員

私立学校特別研修会・外国語（英語）教育改革特別部会〔西日本エリア（鹿児島）〕 実施内容概要

平成 28 年 12 月 9 日～10 日に鹿児島育英館中学校・高等学校及び鹿児島東急 REI ホテルを会場に開催。参加者 16 名。初日は鹿児島育英館中学校・高等学校で開会式の後、研究授業を見学、吉田美和子・同校教諭、ジェームズ・ジョンストン・同校講師からの実践発表、研究授業を行った先生方との意見交換会を行った。2 日目は鹿児島東急 REI ホテルで、藤田保・上智大学言語教育研究センター教授・副センター長の英語による講演、文科省事業「英語教育推進リーダー中央研修」平成 27 年度受講者の先生方の指導による英語でのワークショップ、意見交換会を行った。また講演を賜った藤田保先生は 2 日目の午前中から閉会式までご参加くださり、参加者の先生方の質問等にお答え下さった。少人数の参加ではあったが、今回も内容の濃い研修会となった。

開会式

開会にあたり山崎吉朗・当研究所主任研究員から挨拶があった。

この研修会は昨年からはまった。今年は昨年よりも 1 回増やして実施している。なかなか英語についての文科省の政策動向が私学に伝わっていない現状があるため始めた。詰め込み過ぎにおもうこともあるかもしれないが、先生方には多くを学んでいただいて、ご自身の学校にもどられたら、学校に、また、地域に対して私学の英語教育を進めて頂ければと思う。

続いて、宮元一頼・鹿児島育英館中学校・高等学校校長より視察校代表としての挨拶があった。

英語は大事なツールだと思っている。言葉の習得に一番必要なのは感動と共に、言葉が人の中に入っていくということを聞いた事がある。英語も一緒だと思っている。先生方が子ども達に教える英語が、子ども達の一生の宝になっていくような勉強を私学の先生が先んじてして頂きたい。今日は吉田先生とジョンストン先生に発表する機会を与えてもらった。育英館にとっても素晴らしいチャンスだと思っている。先生方とこれからの人間関係を築きながら、お互いにいいことがあると良いと思っている。



研究授業

英語の授業を 5 限、6 限の 2 つの時間を見学した。少人数で行われる授業は生徒の発話等が活発行われていた。また、iPad などの ICT 機器が授業に取り入れられており、生徒が ICT 機器を使いこなしている様子は、「参考になった」という感想が多く見られ、参加者にとって刺激になる非常に充実した内容であった。



実践発表

吉田美和子・鹿児島育英館中学高等学校教諭、ジェームズ・ジョンストン同校・講師から実践発表があった。まず、吉田先生からは、生徒に英語を話させることの難しさや、同校が行っている英語の授業についての実践、生徒に身に付けて欲しい力等について、また、文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」を受講して学んだ事を授業に活かしてからの、生徒の変化についての発表があった。つづいて、ジェームズ先生より、ICTを用いた教育実践についての報告があった。実践発表につづいて質疑応答意見交換会を行った。

- ・全員が iPad を持っているが、ネットの環境はまだまだ良く無いが、すこしずつ良くしていつている。
- ・目指しているところは、Communication Based English Education。Teaching English in English を心掛けている、が時折日本語もまぜて授業をおこなっている。4C (Critical Thinking Communication Collaboration Creativity) を身に付けて欲しい。また、高校卒業するとき、英語の技能とともに ICT の技能や International Experience といった海外に対する自信というものを持った生徒を送り出したい。
- ・授業を英語で行い、生徒が英語を話そうとする様にしようとして英語を使い続けていた、そして、鹿児島育英館中学高等学校に来てから 2 年目に中央研修に参加、英語で英語を教えるのが、英語を話しているだけであったことに気がついた。その後も英語を使って教えていると、模試や GTEC の点数、英検の合格率が上がってきた。output をさせているのこの効果が出ているのだと考えられる。
- ・いままでは iPad を使わせてはいたが、使いこなせてはいなかった。決めたものをまずは使ってみるといことをしている。
- ・ジェームズ先生からは 21 世紀型スキルについて 4C が何故必要になるのかについての説明があった。そして、英語学習において ICT はペンと同じ道具であり、ゴールはあくまで英語の習得をさせる部分であり、英語の習得がゴールという点を説明、ICT を使用する目的や使用について、授業や生徒の学習状況の把握にどの様に ICT 環境機器、教育アプリを活用しているのかについての詳しい説明があった。



講演

藤田保・上智大学言語教育研究センター教授・副センター長より英語での講演。現在の社会について、またその社会変化の中で何故今英語教育改革、大学入試改革が行われているのかについての解説。これからの時代を生きる子ども達に育成すべき資質何度について、どの様に英語を教えるのか、ブルームのタキソノミーについて、Can-Do について CLIL について、と豊富な内容の講演であった。参加者からは、勉強になった、有意義であった、授業の方向性についてのヒントを得られたという意見があった。

- ・将来、正解の無い世界 (VUCA World) で子ども達が生き残っていくためにどの様なスキルが必要となるのか①cognition②communication③literacy④global citizenship である。
- ・いままでの英語の学習は知識を伝達することにかたよっていた。生徒が獲得した知識をどの様に会話の中で使用するのか、どの様に自分の考えをまとめ、表現・発表し、周りの人値と共有しようとするのか、また同時に人のアイディアを尊重することが重要である。
- ・CEFR・・・言語の枠を越えて外国語の熟達度を比較する国際基準。言語を使って「何ができるか」という形で力を表し、A1～C2 の 6 段階で表す。新しい英語教育の目標は生徒の力を CEFR に参照したときのレベルを今よりも多角、良いものにする事である。



- ・4技能を測ることのできる TEAP 等外部試験の入試への導入が進んでいる。
- ・日本の高校3年生の英語の4技能はいずれも低く、特に writing と speaking では CEFR の最もしたのレベル A1 に大半の生徒が分布している。その他の2技能も多くの生徒は A1 レベルに位置している。また、一方的な教授では無く、アクティブ・ラーニングを取り入れた能動的学びが重要。
- ・言語習得のプロセスは教え込むのではなく、間違いを繰り返しながら習得していく、使いながら覚える。

ワークショップ

平成 27 年度文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者によるワークショップが行われた。同受講者によるワークショップが特別研修会で始まってから 6 回目。今回のテーマは「Pronunciation & Listening1」、「Pronunciation & Listening2」、「Writing」が行われた。参加者からは、生徒の気持ちになれた、授業のヒントが得られた、という意見が多く寄せられた。意見交換では、全体で質問を受ける形では無く、個々の先生に質問をする形で進められた。



閉会式



山崎吉朗・当研究所主任研究員から総括があった。

先生方一人一人が学校に戻られてから、ご自分の学校の先生方、地域の先生方、地域によっては研究会等あると思うけれども、そういうところで今回の研修会の話をご皆さんに伝えて頂いて、それぞれの先生が生徒達や周りの先生方に還元して頂きたいなと思う。少ない数で効果を大きくするということが我々私学のやってきたことなので、一人一人が代表として頑張ってもらいたいと思う。

◆ 都道府県別参加人数 ◆

No.	都道府県名	参加申込数	No.	都道府県名	参加申込数	No.	都道府県名	参加申込数
1	北海道	0	17	石川	0	33	岡山	0
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	2
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	0	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	0	37	香川	0
6	山形	0	22	静岡	0	38	愛媛	0
7	福島	0	23	愛知	0	39	高知	0
8	新潟	0	24	三重	0	40	福岡	3
9	茨城	0	25	滋賀	0	41	佐賀	0
10	栃木	1	26	京都	0	42	長崎	0
11	群馬	0	27	大阪	0	43	熊本	0
12	埼玉	0	28	兵庫	1	44	大分	1
13	千葉	0	29	奈良	1	45	宮崎	1
14	神奈川	0	30	和歌山	0	46	鹿児島	6
15	東京	0	31	鳥取	0	47	沖縄	0
16	富山	0	32	島根	0	計	16	

アンケート結果 回収率 93.7% (15名/16名)

○問1、当研修会への参加目的をお知らせ下さい。

- ・授業の改革方法を具体的に学ぶため。
- ・本格的ICT導入に向け検討中課題が多くあるため、解決のヒント探りたかった。
- ・英語教育改革に向けての情報収集や勉強のため。
- ・英語教育改革のヒントをつかむ。iPad導入後の様子を知る。

○問2、当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお書き下さい。

○研究授業

- ・それぞれの個性の生かされた授業で、大きな学びとなった。同じ立場として、他の先生の授業をこうして見られたことは、とても貴重な体験だ。ICTを実際にどのように使っているかを生で見られて、身近なものに感じられた。
- ・ICTの活用に対しても感心させられたが、何よりも、先生たちが自分の話す英語の間違いを恐れずに授業を行おうとする姿勢に感心させられた。
- ・生徒を授業に参加させるためのテクニック、教科書から内容を広げて多くの英語を使用するための発問の仕方などが参考になった。
- ・ICTを実際に活用している授業を見て、iPad等はまた私の学校では厳しいが、PC等を使って少しずつ導入を考えていたので、非常に参考になった。

○実践発表

- ・模試やセンターにもしっかりつながるのだということを証明されていたので、進学コースを担当し、同時に、どうやってICT教育を取り入れていけばよいか不安になっている私にとって、チャレンジする勇気、自信を与えてもらったような気がする。
- ・英語で英語教育を実践した結果、実際に結果として生徒たちの英語力が向上していて、非常に参考になった。一つずつトライしていこうという気持ちになった。
- ・ICTを導入するにあたって、授業の中でどの様に取り入れていくか参考になった。
- ・outputの教科が英検の合格率や模試の成績向上に結びついているという話が参考になった。また、どうしても模試や入試でどれだけ点がとれるかということが、つい頭によぎってしまうが、the 4C'sの話がとても印象に残った。

○分科会（質疑応答・意見交換会）

- ・全室にWi-Fi環境を設置する上での管理体制を考える参考になった。
- ・自分の知りたかったことを、全て知ることができた気がする。具体的に何を考えてレッスンを組み立てているかを直接聞くことができた。
- ・時間に制限があったため、個別での質疑に途中でなったが、逆に質問しにくい雰囲気であった。継続して全体でよかったかと思う。

- ・センター対策を英語で授業できるのかという疑問に対する解答の糸口が見つかった様に思う。気持ちよく日本語で5分説明するより、3分間生徒に英語で例示する方がよいというのは納得できた。

○講演

- ・現在の日本全体の英語教育の方針となぜそれが求められているのかということがよく分かった。自分の授業をどんどん変えていきたいという意欲がすごくわいた。
- ・「考えさせる」指導について、改めてその重要性を認識した。Functionがあつてこそその本当のコミュニケーション能力だということを念頭に置いた指導を心がけようと思う。
- ・なぜ英語で英語を教えなければならないか、と、今、自分のやっていることがどんなことなのかがわかった。
- ・現在の英語教育改革の現状とそれに向けた指導のあり方についての講演でしたが、とても理解しやすい内容で理解が深まり、また今後の授業の方向性についても大きなヒントをいただいた。

○ワークショップ

- ・手を動かして体をつかってアクセントを強調するなど、具体的にどう今までのリスニングを変えればよいのかが分かったので、すぐに実践してみたいと思う。
- ・デモ授業によって生徒の心情がわかり、緊張状態を続けてはいけないことなど身を持って体験できた。今後の授業に生かしたいと思う。
- ・発音のレッスンは個人的に受けたことがなかったので、授業に使えるヒントをもらった。
- ・生徒の立場になって授業を受けることで、改めて、どのような点に興味を示すものか、あるいはその活動の目的がどうすれば明確になり、また生徒のモチベーションが上がるかというヒントを沢山頂いた。また、発音や英作文についても多くのテクニックを教えて頂き、大変参考になった。

○意見交換会 (2日目)

- ・生徒への添削対応についてもヒントを沢山いただいた。
- ・もっと時間が欲しかったです、新しいことにチャレンジされている先生方の話が聞けて、とても刺激を受けた。
- ・共通して聞きたいこともあったのではないかと思いますので、最初は全員の前で質問する時間を確保してほしい。
- ・LEEPの情報や、またそれを用いた結果の成績変動などを聞けて良かった。

○問3、今後の本研修会への要望等をお書き下さい(例：研修会で取り上げてほしいテーマ、課題、実施してほしいプログラム、継続もしくは改善を望む事項)。併せて、当研究所の研修事業等に対するご意見がありましたらお書き下さい。

- ・授業でそのまま活用できるような具体的なアクティビティをより多く紹介していただけるとありがたい。
- ・参加者が授業を作り、それを研究する形式。
- ・実践授業を多く見学したい。